

新卒確保中小社長動く

中小企業の社長たちが最近、大学のキャンパスに足しげく通っている。人手不足が進むなか、大手企業が採用を増やしているため、採用が難しくなっている。会場を提供する大学側にも、就職先の選択肢を広げて欲しいとの思いがある。



社長が大学生に熱心に会社の事業をアピールした12日、大阪府茨木市の追手門学院大学

大学で説明会、自らPR

12日、大阪府茨木市の追手門学院大学で開かれた

「社長と話せる合同企業説明会」。先に部屋に入っていた中小企業の社長ら約30人が拍手で、学生約70人の入室を迎えた。次に社長らは、30秒ずつマイクを握った。

「優秀なみなさんなら将来、社長になれる可能性があります。あります！」

その後、学生らは、室内に設けられた各社のブースに行き、詳しい説明を聞いて回った。

中小企業にとって、人材集めの難しさは、悩みの種になっている。

産業用機械メーカーの山田製作所(大阪府大東市)はここ3年、新入社員が一人も採用できていない。山田茂社長(54)は、「中堅やベテランが新入社員に教えることで、職場は活性化し、技術が伝承できるのだが」と話す。

防犯グッズを製造するリング(大阪市港区)は、今

年4月入社の採用に、ひとりも応募がなかった。今回の説明会には、若手社員を連れて参加。8人がブースを訪れた。斎藤陽子社長(46)は、「(次のステップの)会社見学に来てくれる学生を確保したい」。

主催する大阪府中小企業家同友会によると、大会場で開いてきた説明会への参加者は年々減り、2015年には58人となった。そこで昨年からは、大学に経営者が出向く形に変え、今年からは6大学で開くことにした。社長らは6月以降も、各大学に足を運ぶ。

大学によると、最近では、学生の地元志向も強く、中小企業を知れば、希望者も増えるとみている。

こうした取り組みは、大阪以外にも広がっている。石川県でも今年4月、約20社の経営者が大学に出向く説明会を開いた。一方、兵庫県の中小企業家同友会は、大会場に学生を集めるスタイルを続ける。担当者は、「社長が一堂に集まる迫力が重要だ」。4月に神戸市内で開いた説明会には、65人の社長が参加したという。(神山純一)